

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400273		
法人名	大和産業株式会社		
事業所名	グループホーム垂井だいわ福寿の杜 第1ユニット		
所在地	岐阜県不破郡垂井町栗原372-1		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172400273&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成22年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節にあわせた行事や講師による音楽療法、ボランティアによるハーモニカ・ギター演奏が毎週1回あり懐かしい音楽にふれ心をリフレッシュしていただいたり、フラワーアレンジメント、季節の花見学(さくら、菖蒲、藤、ひまわり、コスモス、など)目で楽しんで頂く機会を増やし、施設の中に閉じこもるのではなく、なるべく外にでれるように工夫しています。利用者のかたに喜んで頂けるよう何にでもあります。いろいろ試して頂けるよう職員が考え挑戦して頂ける環境づくりもしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム垂井だいわ福寿の杜は地域密着型のグループホームとして、地域に受け入れられる事を合言葉に、情報を発信し続けた結果、ようやく地域住民から施設の利用者が認められるようになった。近々の地域住民の協力の一部を紹介すると①町が開催する文化祭に施設の利用者の成果品の展示を依頼された。②草が茫茫と茂っていた施設の畑が、知らぬ間に近隣の住民が草刈をし、立派な園芸の場に生まれ変わっていた。③ボランティアが日常的な感覚で訪問している。④災害対策について、避難訓練や初期消火訓練に近隣の住民が自分たちの訓練をするように参加している。⑤非常事態発生時備えた緊急時の連絡に、職員や消防署、警察署、町役場、施設関係者等に連絡することは勿論であるが、向う三軒両隣の住民の方の電話番号が緊急連絡簿に書かれており、一番早く駆けつけてくれる応援隊としての役割を担っている。いずれも地域住民との交流・連携が際立っている素晴らしい施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に共有して地域に溶け込める施設を目指し仕事に取り組んでいる。	理念が職員や利用者、その家族、訪問者の誰もが目に入る所々に掲示しており、職員全員が理念に沿ったサービスの提供をしている。訪問者の誰もが理念を確認でき、職員は共有し、理念に沿った支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの数が年々増えてきて、地域の方から畑など参加したいと声をかけて下さるようになってきた。	地域住民との交流・連携は申し分がないほど出来ている。ボランティアの多さ、お互いの行事に参加し合うこと、災害時の協力など、ともに暮らす地域住民の一員として日常的に繋がりが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員や地域代表の方に、いつでも相談に来て頂けるよう伝えてあり、相談も何件か受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の入居情報、事故報告、行事等報告し、助言やアドバイスをいただいている。職員にも報告しサービス向上に活かしている。	運営推進会議を最大限、上手く利用して事業所運営に反映させている。運営推進会議の参加者からは活発な意見が出されている。他の事業所の施設長の参加もあり、その会議の様子は会議録を見れば一目瞭然である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1回役場に行き情報交換をしている。2ヶ月に1回の運営推進会議にも毎回参加していただいている。	施設長や管理者が日常的に役場を訪問して、情報の交換を行っている。調査当日も、スプリンクラーの設置のことで、役場職員が施設を訪問していた。運営推進会議の場や色々な場面で役場担当職員と意見交換をして助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行った職員が報告、回覧などで全員に熟知させているが、事故防止のため2段階に、夜間のみ施錠している。	職員が外部研修などで身体拘束について研修をしたことを1つの切っ掛けとして、全職員が身体拘束をしないケアを話し合い、職員全員が身体拘束は、行わないことが認識できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行った職員が報告、回覧などで全員に熟知させている。職員の目に付く箇所に気をつける言葉など張って虐待防止がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には順次研修にて勉強してもらっている、レポートで全職員にも報告している。必要な方には話しをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得いただけるまで説明を行い、改定等は家族会のときに説明しご理解していただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、施設長、管理者または外部機関に話せること伝え、契約書にも外部機関連絡先が掲示してある。相談箱の設置もしてある。	施設が開催する様々な行事に家族の参加が多い。時として、家族が行事開催の主権者になって、行事を盛り上げている。家族との良好な関係が出来ており、職員は家族と会う機会を利用して、希望・要望を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議、ミーティング等で意見を聞き、その意見を幹部会議で報告検討している。	幹部以上の会議が定期的開催されるが、その会議内容が職員全員に回覧される。また、職員が参加するフロアー会議やミーティング、申し送りなど活発な意見が交わされている。良い意見が出てきたときは、直ちに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを申請し職員に、介護職員処遇改善交付金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問指導事業に申し込み、施設での研修をしている。他にも段階に応じて研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加している。同じ地区のグループホームの運営推進会議に参加したり来て頂いたり交流の機会をもっている。研修に参加した時他の施設と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に行き本人とゆっくり話し、アセスメントをしっかり取り不安なこと、求めていること等受け止め努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、契約のときに家族と話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し必要としている支援が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを尊重し少しでも気持ちに添えるよう努力している。掃除、洗濯、炊事など出来る範囲で参加できない部分を職員がサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会報にて1ヶ月の様子を知らせたり、行事参加や面会時に家族との良い関係を築いてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院など定期的に行っている。馴染みの方が見えた際本人の希望で面会して頂いている。	利用者本人が馴染みの場所(自宅や美容院、近くの神社、お墓等)に行くことを希望したときは必ず、叶えている。喫茶店でも地域の人と馴染みになっており、これまでの関係を継続させるための支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように、利用者同士が交流できる空間を作っている。利用者同士の性格を見極め問題が起こらないように配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の受け入れが可能になり退去された方がその後状態が悪くなり相談を受け経済的な理由もあり入居が無理な為ショートステイの利用を援助したこともあり、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを大切にして本人の希望に添えるようケアプランを立てて実行している。家族の協力が必要なときは話し合い協力を依頼している。ひもときシートを使い職員全体で考え検討する時間を作っている。	利用者の全員が自分の意志をハッキリと伝え、やりたい事が出来るので、日常的な会話の中から本人が何をしたいかの把握をしている。家族の協力も得ながら利用者は伸び伸びと、事業所での生活を楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接のときに、本人、家族からアセスメントを取り把握につめるほか、家族の面会時や本人との会話から情報集めケアに生かす取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来ること、得意なことを見つけるように活動時に目を向けて観察して実行できるところは、挑戦している。毎朝、健康チェックを行い、異常がある場合は看護師に連絡して主治医と連携を取り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認、月1回のモニタリングで現状把握、フロアー会議でケース検討を行い意見を出し合っている。介護計画に盛り込んでいる。	看護師を中心に、介護計画作成に職員全員で話し合いながらケアマネが作成している。モニタリングがしっかり行われ、次の目標に生かされている。介護計画作成毎に家族や主治医の意見が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各チェック表、申し送りノート、業務日誌などで情報の共有を図りケアプランの作成見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、健康診断やその他必要に応じてサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による活動、馴染みの店など地域の場所や人の力を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらい、協力医師の指示により、専門の医療が必要なときは協力医師より予約を取ってもらい専門の医療に受診している。	かかりつけ医への受診は基本的には家族等をお願いするが、できるだけ職員が同行している。主治医との連携も良く、より良い関係を築きながら適切な医療を受けている。高齢者の良い歯の表彰(8020運動)に歯科医の推薦を受けて6人の方が選出された。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が看護師であり、気軽に相談でき健康面も支援している。夜間も連絡体制が出来ており、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師が病院と連携を取り情報交換や相談をして連携を取っている。退院のときは家族、医師、管理者、看護婦でカンファレンスを行い、退院後の対応など話し合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態をこまめに家族に伝え、重度化したときの対応を少しずつ話しあっている。終末期については、家族、医師、管理者、看護婦などで話し合い出来る範囲で取り組んでいる。	利用者の現状を伝えながら早い段階からの重度化について関係者と話し合い、終末期のあり方についても方針の共有を図っている。既に2人の方の看取りを行い、現在も1人看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底している。定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム独自のマニュアルを作成それに基づき避難訓練を実地、マニュアルの見直しを行っている。消防署・地域住民も交え年2回避難訓練を実地している。	昼夜想定避難訓練は消防署協力のもと地域住民も参加して行っている。災害時に備えて水、日用品、介護用品、車いす等用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方に話していることを頭においている。面会簿や個人情報の取り扱いには注意している。	一人ひとりの人権を尊重し、プライドを傷つけないよう職員間で話し合い、共有し、支援している。個人情報についても面会簿を1枚ずつにしたり、トイレ対応についても細かい心配りがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望で行動出来るように支援している。買物のとき野菜など選んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の状態に合わせ、本人と相談しながら希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にはエステを開催している。入浴の着替えは同じものにならないように、洋服の片付けにも気を手けている。好きな靴・洋服を買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、盛り付けなど、出来ることは職員と一緒にこなしている。時々外食もして好きな物を選んで食べて頂いている。	利用者にとって食事は大きな楽しみの1つである。一人ひとりの力量に合わせて買い出し、調理の下ごしらえ、後片付け等行っている。職員はもとより、施設長も一緒に食卓に付き、和やかな雰囲気である。外食の時は選択メニューとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、個人によって変更している、食事は水分量、チェック表に記入して確認する。栄養バランスの取れていない方は看護師に報告して医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	垂井町成人歯科検診をして頂き、歯の状態を職員が把握し毎食後の口腔ケアに行かしている。秋に8020運動の表彰を2名が受ける予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握、トイレ誘導を行う。なるべくおむつ利用を避けるように努力している。	一人ひとりの排泄パターン、習慣等を把握し、なるべくトイレに誘導し、昼間は布パンツで過ごしている。夜間は睡眠妨害に配慮しながら自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分チェック表などを利用して便秘の原因を探し散歩、マッサージ、体操を取り入れ医師と相談しながら服薬などで調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回曜日は決まっている。時間は午前中に入ることが多いが希望によっては午後でもOKである。本人が希望すればいつでも入浴ができるように、対応している。	週3回入浴は午前中に行っているが、希望のある方や外出中だった方は随時行っている。個人に合ったゆっくり、ゆったりとした心地良い支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣にあわせて、ベット、畳などで対応している。Dルームの畳スペースをもう少し活用していきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に処方箋をファイリング、職員が随時確認できるようになっている。重要な薬については詳細が把握できるよう別紙にファイリングしている。申し送りノートや業務日誌にて変更の旨を記入、職員全員把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法・フラワーアレンジメント・エステなど定期的に参加できるようにしたり、散歩や買い物、本人希望の手芸や塗り絵を常に用意しておくように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って、戸外に出かけているがなかなか希望が少ない。花が好きの方が多く季節の花を見に行く機会を作っている。	散歩しながら季節の花を見たり、和菓子屋さん経営の喫茶店、買い物等に出かけている。年1回福祉バスを利用して旅行に出かける。本社の応援もあり、毎年希望を聞くなど思いやりのある外出支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設長が管理しているが、家族と相談して了承を得た方は、財布をもってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談して、都合の良い時間にかけて頂いている。手紙も出来るだけ書いて頂くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者全員で、掃除をする。玄関に季節の花を生ける。玄関・Dルーム・畳スペースを利用者がいつでも休めるように工夫してある。	共用空間は板の間、畳の間があり、天井も高くなっている。利用者の貼り絵や職員と共同制作の作品や季節の花々も飾られ、安心して居心地良く過ごせるよう配慮と工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、畳スペース(拡張)、踊り場など利用者同士お話ししたり、外を眺めたり自由に過ごせるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、仏壇、家具など自由に持ってきていただいている。	家族の写真や仏壇、使い慣れたタンス等の持ち込み品がある。表彰状や手作りの作品を飾るなど、本人にとって居心地良く過ごせる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識、入浴の使用札など、出来る限り工夫している。知能リハプリントを生かし分かる力を引き出している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400273		
法人名	大和産業株式会社		
事業所名	グループホーム垂井だいわ福寿の杜 第2ユニット		
所在地	岐阜県不破郡垂井町栗原372-1		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172400273&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成22年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節にあわせた行事や講師による音楽療法、ボランティアによるハーモニカ・ギター演奏が毎週1回あり懐かしい音楽にふれ心をリフレッシュしていただいたり、フラワーアレンジメント、季節の花見学(さくら、菖蒲、藤、ひまわり、コスモス、など)目で楽しんで頂く機会を増やし、施設の中に閉じこもるのではなく、なるべく外に出れるように工夫しています。利用者の方に喜んで頂けるよう何に興味があるかいろんなことを試して頂けるよう職員が考え挑戦して頂ける環境づくりもしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に共有して地域に溶け込める施設を目指し仕事に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの数が年々増えてきて、地域の方から畑など参加したいと声をかけて下さるようになってきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員や地域代表の方に、いつでも相談に来て頂けるよう伝えてあり、相談も何件か受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の入居情報、事故報告、行事等報告し、助言やアドバイスをいただいている。職員にも報告しサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回役場に行き情報交換をしている。2ヶ月に1回の運営推進会議にも毎回参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行った職員が報告、回覧などで全員に熟知させているが、事故防止のため2階階段に、夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行った職員が報告、回覧などで全員に熟知させている。職員の目に付く箇所に気をつける言葉など張って虐待防止がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には順次研修にて勉強してもらっている、レポートで全職員にも報告している。必要な方には話しをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得いただけるまで説明を行い、改定等は家族会のときに説明しご理解していただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、施設長、管理者または外部機関に話せること伝え、契約書にも外部機関連絡先が掲示してある。相談箱の設置もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、ミーティング等で意見を聞き、その意見を幹部会議で報告検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを申請し職員に、介護職員処遇改善交付金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問指導事業に申し込み、施設での研修をしている。他にも段階に応じて研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加している。同じ地区のグループホームの運営推進会議に参加したり来て頂いたり交流の機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に行き本人とゆっくり話し、アセスメントをしっかり取り不安なこと、求めていること等受け止め努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、契約のときに家族と話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し必要としている支援が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを尊重し少しでも気持ちに添えるよう努力している。掃除、洗濯、炊事など出来る範囲で参加できない部分を職員がサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会報にて1ヶ月の様子を知らせたり、行事参加や面会時に家族との良い関係を築いてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努力はしているがなかなか実行には移せていない。家族と話し合い馴染みの場所などを聴き支援に努めて行きたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように、利用者同士が交流できる空間を作っている。利用者同士の性格を見極め問題が起こらないように配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所のときいつでも相談にのる旨を伝え、必要があれば関係を断ち切らないように対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを大切に本人の希望に添えるようケアプランを立てて実行している。家族の協力が必要なときは話し合い協力を依頼している。ひもときシートを使い職員全体で考え検討する時間を作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接のときに、本人、家族からアセスメントを取り把握につめるほか、家族の面会時や本人との会話から情報集めケアに生かす取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来ること、得意なことを見つけるように活動時に目を向けて観察して実行できる場所は、挑戦している。毎朝、健康チェックを行い、異常がある場合は看護師に連絡して主治医と連携を取り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認、月1回のモニタリングで現状把握、フロア会議でケース検討を行い意見を出し合っている。介護計画に盛り込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各チェック表、申し送りノート、業務日誌などで情報の共有を図りケアプランの作成見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、健康診断やその他必要に応じてサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による活動、馴染みの店など地域の場所や人の力を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらい、協力医師の指示により、専門の医療が必要なときは協力医師より予約を取ってもらい専門の医療に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が看護師であり、気軽に相談でき健康面も支援している。夜間も連絡体制が出来ており、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師が病院と連携を取り情報交換や相談をして連携を取っている。退院のときは家族、医師、管理者、看護婦でカンファレンスを行い、退院後の対応など話し合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態をこまめに家族に伝え、重度化したときの対応を少しずつ話しあっている。終末期については、家族、医師、管理者、看護婦などで話し合い出来る範囲で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底している。定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム独自のマニュアルを作成それに基づき避難訓練を実地、マニュアルの見直しを行っている。消防署・地域住民も交え年2回避難訓練を実地している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方に話していることを頭においている。面会簿や個人情報の取り扱いには注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望で行動出来るように支援している。買物のとき野菜など選んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の状態に合わせ、本人と相談しながら希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にあエステを開催している。入浴の着替えは同じものにならないように、洋服の片付けにも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、盛り付けなど、出来ることは職員と一緒にこなしている。時々外食もして好きな物を選んで食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、個人によって「変更している、食事量は水分量、チェック表に記入して確認する。栄養バランスの取れていない方は看護師に報告して医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	垂井町成人歯科検診をして頂き、歯の状態を職員が把握し毎食後の口腔ケアに行かしている。秋に8020運動の表彰を4名が受ける予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握、トイレ誘導を行う。なるべくおむつ利用を避けるように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分チェック表などを利用して便秘の原因を探し散歩、マッサージ、体操を取り入れ医師と相談しながら服薬などで調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回曜日は決まっている。時間は午前中に入ることが多いが希望によっては午後でもOKである。本人が希望すればいつでも入浴ができるように、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣にあわせて、ベット、畳などで対応している。Dルームの畳スペースをもう少し活用していきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に処方箋をファイリング、職員が随時確認できるようになっている。重要な薬については詳細が把握できるよう別紙にファイリングしている。申し送りノートや業務日誌にて変更の旨を記入、職員全員把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法・フラワーアレンジメント・エステなど定期的に参加できるようにしたり、散歩や買い物、本人希望の手芸や塗り絵を常に用意しておくように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って、戸外に出かけているがなかなか希望が少ない。花が好きな方が多く季節の花を見に行く機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設長が管理しているが、家族と相談して了承を得た方は、財布をもってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談して、都合の良い時間にかけて頂いている。手紙も出来るだけ書いて頂くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	踊り場のボードに季節の行事を記入したり、季節にちなんだコメントを記入。共用スペースには、利用者と職員が共同で作った作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、畳スペース(拡張)、踊り場など利用者同士お話ししたり、外を眺めたり自由に過ごせるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、仏壇、家具など自由に持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識、入浴の使用札など、出来る限り工夫している。知能リハプリントを生かし分かる力を引き出している。		